

全国まなべ会会報

編集と発行 全国まなべ会広報部 事務所

〒763-0053 香川県丸亀市金倉町1544-1
TEL & FAX 0877(89)9530

第40回全国まなべ会総会岡山大会



令和5年5月20日(土)~21日(日) ダイヤモンド瀬戸内マリンホテルにて

はじめに

この令和五年になって、やっ
と四十回目の記念大会を岡山県
玉野市の渋川にある「ダイヤモンド
瀬戸内マリンホテル」で開
催することが出来ました。四年
ぶりの開催となりました。多年
にわたるコロナ感染問題により、
全国大会は幾度も延期の憂き目
となりましたが、それ故に皆様
と再会できる喜びは一入ひとしほであり
ました。

ところが、今度は開催場所の
変更という厄介な問題が勃発し
ました。それというのも、この五
月には広島市において先進七ヶ
国サミットが開催されることにな
っていましたが、この大波の
余波を受けてしまい、当初開催
場所の「笠岡グランドホテル」側
から急遽キャンセルを申し渡さ
れるというハプニングに遭遇す
ることになってしまったもので
す。

この件については、当まなべ
会では、既に一年前から予約を
申し入れておりましたが、如何
せん、広島県側から笠岡グラン
ドホテルへ強い変更申し出があ

りました。そこでまなべ会側で
は、周囲の事情を勘案して折れ
たものであります。要人警護の
ためとか、何かの理由があった
にせよ、公的機関は「未来の問題
発生予想」とか「事態発生後の対
処法」に大変疎いという実態を
世間に晒したのではなからうか。
危機管理の概念が一番重要であ
るという意識を常に持っている
筆者にとつては、理解できない
ものがありました。

この問題案件について、岡山
まなべ会役員の隆さんや芳男さ
んには大変なご尽力と対処を頂
き感謝を申し上げたいと存じま
す。また、ご参加いただいた方々
にも大変ご心配をお掛け致しま
した。

ここで二日間の大会は無事終
えることが出来ましたが、未だ
に感染症問題は終息には至って
おりません。今後も健康には充
分ご配慮頂き、楽しい毎日を送
られますよう祈念申し上げます
て、今回の会報誌発行の挨拶に
代えさせていただきます。



全国まなべ会会長
真鍋梅美氏

今年五月の第四十回全国まなべ会等岡大
 会は当初の会場から岡山洪川のホテル「瀬
 戸内マリンホテル」に会場を替えて総会
 を開催いたしました。この節目の年には、は
 からずも会員皆様のご推挙により全国の
 新会長に就任することになりました。お
 もいも寄らず会長という重責を担うこと
 になり身の引き締まる思いでございます。
 ご承知のように、社会は少子高齢化が
 進展しており、人口減少時代を迎えてお
 ります。従ってわたし達の組織におい
 ても同様で、高齢化による会員の減少とい
 う状況になっております。この変革期に
 遭遇している環境のもとで、まなべ会と
 いう大きな組織を如何ように運営してい
 けるものか、皆様方の叡智をお借りして
 共に進んでまいりたいと存じます。

思い返せば、全国まなべ会が瀬戸内の
 真鍋島で昭和五十六年(1981)に発会し
 てから、皆様方のご支援により四十数年の
 歴史を刻んでまいりました。当時のまなべ
 会会則に定める活動範囲から考えてみます
 と、今では時代も大きく変転してまいりま
 した。

新任のご挨拶

は今日において大きな格差が発生し、地方
 は埋没の危機に瀕しているかもしれませ
 ん。そこで、地方独自の自己実現も大切にな
 ってまいりました。そのためにも、全国全域に
 おいて「まなべ」に関わる人たちがおられま
 す。交流を重ねていけば自ずと活動目的や
 対象も明確になり、充実した組織運営がで
 きるものと考えられるのではないでし
 ょうか。

歴史に学び、そこから得た知恵を社会
 に還元するという利他精神発露も想定
 されます。近く日本紙幣の一つの顔にな
 る「洪沢栄一」が信条とする共生協調思
 想が重要な指針になってくるのではな
 いでしょうか。今日においては、まった
 く予測想定が出来ない社会環境下であ
 っても、自然環境や、健康志向には大い
 なる関心が寄せられるようになってま
 いました。わたし達もこれらの諸案件
 について視野を広げて同族会活動の意
 義と価値について共に考えながら組織
 運営を進めていきたいと思えます。

なにとぞ皆様方のご支援ご理解を賜
 りまして、楽しく幸せな事業推進を図って
 いきたいと存じます。最後になりましたが、
 未だ現在においても感染症問題は終息して
 おりません。会員および関係者におかれま
 しても健康には充分ご留意され、楽しい生
 活を過ごされますよう祈念申し上げ新任の
 挨拶に代えさせていただきます。 不一

令和五年度の総会と役員会について

討議内容の概要

例年通り、総会の前には副会長会
 という役員会が開催されています。
 今回は、長年にわたり会長の重責を
 果たされて来られた会長の真鍋光廣
 氏が退任の意思表示をされていた関
 係で、新会長の選任をすることが議
 題になっていた。

ここでは、まず会長から役員
 の皆様方に対し、全国まなべ会組織
 活動に尽力され、そしてご協力を
 頂いたことに衷心より感謝申し
 上げたい、との温かいお言葉を頂
 きました。そして今後もこれまで
 作り上げてきた「まなべ会の歴史
 の継承」と「まなべ姓への誇り」を
 胸に今後とも一層活動に邁進し
 て頂きたいと述べられ、退任の挨拶
 をされました。役員会において
 は、早速新会長の選任の討議に入
 り、新会長には現静岡岡会長の真鍋
 梅美氏を選任することになりました。

それに些か関連して、この度退
 任された真鍋光廣会長様には長
 年の執務実績や各種功績に対し
 て名誉賞を授与して頂くとの提
 案がされました。これについては

来年度の案件として実行することに
 なりました。

また、来年度の全国大会開催の地
 区については、阿波まなべ会が担当
 することも決定されました。一方、全
 国役員会の担当者や各地区の役員につ
 いても一部変更がありました。別
 欄に掲載させていただきます。





一方財政関係については、本会報誌の15頁に会計決算書などの数字を掲載しておりますので、ご覧ください。なおご承知のごとく、財政収支については前65号の会報誌で過去二十年間の会費収入と経費支出を例示しております通り、収支は悪化しているのが実態であります。これについては、全国的な少子高齢化の波がありますが、わたしども組織もその例に漏れませんが、会員の減少や新規会員の増加が弱いところがあります。

通常では、年間の経費出費は七十万円前後かと予測して、いまの七十万円の数字のため、会費と寄付金収入を合わせてこれくらいあれば会の運営は可能かと思えます。しかし会の剰余金の

現状に鑑みれば、これを毎年少し宛取り崩していったら、これを会員増強のためのPR支出経費に予算計上すれば、会員確保の方策にもなるのではと、財政部では考えております。財政部の個人思案として提示させて頂きました。

また広報部としては、会報誌記載のための投稿が低調であります。このため現在では特定個人の色合いが強くなっていて、はと危惧しています。会報誌は皆様方の交流手段であると考えますので、気軽に、然も面白く読めるものであつて欲しいと思えます。

ところで、本部では会議の内容を明確に記録することに努め、それを簡潔、明確に会員方へ報告せねばなりません。今回はどうであつたか、自信がありません。会員の皆様に在つては身



あいさつをする新会長の梅美様

近な話題などを、どしどしお寄せください。また会報誌の発行については、年二回、春と秋に分けての発行方式を今後とも維持したいと思えます。カラーなど一部入れればと思えますが、予算の都合もあり現在は予定しておりません。

総会の概要

総会については、事前に討議された役員会の案件事項に沿つて報告がされていって、つつがなく会議は終わることになります。参加いただきたい皆さんから質問や

色々な意見をお聞きしたいのですが、なかなか発言がされないのが残念であります。日本人の奥ゆかしからかもしれません。ただ岡山の直己さんは今回参加されていて、私には懐かしい



懐かしい

出会いとなりました。それというのも、直己さんはこれまでに西行法師と真鍋島の関係について関心を持たれて研究をしておられた。その実績を小冊子に纏められて筆者のところへ贈られてきていた。その関係で今回の大会で初めてお会いすることになった。また東京の事務局長をされておられる真鍋美紀さんも今回が初めての出会いであります。美紀さんは



昨年末にオーストリアへ出かけられておられますが、その時に会員の真鍋美紀さんに当地でお会いして交流をされております。このような親睦が出来るのもまなべ会同族の有難さであります。かような素晴らしい会合の機会を与えてくださる「まなべ会」に感謝したく、今後とも発展をお祈りして概要をお伝えいたします。

＊ここに於ける伊川海岸は岡山の



名所旧跡地であり、夏の景色を染しめる場所でもありません。些か時代は変わりましたが、今後ともわたし達の心身に癒しと休養



を与えてくれるものに変わりは有りません。この海を介して讃岐はすぐ前に一望されます。この美しい場所での同集合写真を撮りました。

令和五年 秋の各地区から

埼玉から 初めての真鍋島



令和5年5月21日、私にとっては感動的な一日でした。第40回全国ま

なべ会岡山大会総会の議長の大役を務めた翌日、晴天に恵まれる中、念願の真鍋島初上陸の時を迎えたのです。岩坪港にて感動の第一歩を踏み出した時の感動は、一生忘れることができないでしょう。足の赴くままに、まるで何かに導かれるように、先ずは五輪石塔群に向かいました。平安時代からの真鍋一族のご先祖様が静かに眠っておられるその地で、手を合わせて、厳肅な気持ちになりました。次に本浦港の売店で土産のヒジキとワカメとノリを購入しました。その後、芳男よしおさんにご案内頂き、ご実家(真鍋家住宅)の登録有形文化財に伺いました。邸内の樹齢250年といわれるホルトノキを見ながらお宅にお邪魔した時に、なぜだか自然に涙が溢れ出てきました。お線香の強い香りが、私の心と頭の中に強く入り込んできたのです。残念ながら、生前お目にかかる機会がありませんでした亡き主、礼三様を始めとするご先祖様の遺徳を偲びつつ、お仏壇の前で静かに両手を合わせました。その後、まるでどうさまを訪れ、その北側に位置する

真鍋一族の墓の前で行われた第四期千人供養祭に参列しました。今回新たに父・秀樹の名が記された供養柱を目の前に、父との思い出と感謝の念を新たにしました。真鍋島への往復路の船上での見知った面々との楽しい会話。そして、新たにお付き合いを頂いた皆様との新たな交流。とても愉快で有意義な一日でした。

「お帰り、行ってらっしゃい！」と。後日、芳男さんからSNSにて温かいメッセージを頂きました。あの日の感動が再び蘇りました。真鍋島は私自身にとって「真の故郷ふるさと」だと実感できた瞬間でした。全国まなべ会では約5年に一度、みんなで上陸する機会を設けているとお聞きしました。私はこれからも積極的に参加したいと思っています。もちろん単独でも、じっくりと時間をかけて島内を歩き回りたいと思います。いずれにしても、今後は、真鍋島への帰島の機会は確実に増えるだろうと、今、確信しています。

真鍋 透



伊予から 千人塚供養



西条市野々市の千人塚史跡公園で7月23日、1585年に豊臣秀吉が四国を攻めた「天正の陣」による犠牲者の供養法要が

コロナ禍で4年間中止となっていたが地元住民ら約50人と伊予まなべ会が参列して郷土のために戦った武将らの冥福を祈った。

讃岐から

本年度の歴史探訪については、西讃地方の伊吹島を探訪する計画でしたが、この島で開催される瀬戸芸に合わせたいのでしたが今回は間に合わないため訪問中止となりました。このところのコロナ問題や異常気象による高温続きで、本年はまったく事前の計画も取りづらいつころがある。

今年には郷土の偉人である弘法大師空海の生誕1250年の年に当たるため、生誕地の善通寺では寺の秘仏などが公開されている。初めて拝顔する仏像彫刻に魅了された。この節目の時期には、大師さ

天正の陣では、秀吉の名を受けた約3

万の毛利軍が東予地域に攻めこんだ際、地元の武士ら2千人余りが立ち向かったが、多くが野々市付近で討ち死にしたと伝わる。戦いの後、毛利軍の武将小早川隆景が、遺体を集めて葬ったとされる「千人塚」を地元住民が守り伝え、2004年から毎年供養法要を続けている。澄夫



ある結婚式でのワンシーン



ハラハラドキドキ

だーいすきなお兄ちゃんに描線もっていきましょー



結ちゃんママ

お兄ちゃん(叔父ちゃん)

結ちゃんまもなく1才!

んと関係する京都の東寺や紀州和歌山の高野山でも多くの行事が執行されている。

東京から

第40回全国まなべ会総会は、岡山まなべ会・役員の皆様のご尽力で、ご先祖供養や懇親と大変有意義で楽しい時間をおかけさまで過ごすことができました。ありがとうございます。

総会議案の中で、これまで女性部長の梅美会長より女性部長を大変僭越ながら、微力ながら、引き継がせていただくこととなりました。女性部活動活性化のため、女性の意見、活動状況等を会報誌に掲載し、女性部便りの充実を図るとの事となりました。

第一回は私事目線で恐縮ながら、まなべ会の出来事などを記したいと思います。

初めてまなべ会に参加した熱海大会では、登録が男になっており、今考えると私が女性部長で良いのかと思ひ出しました。

間違えのおかげで同部屋だった、神奈川の雄一様、夏目漱石の研究者の紳士に、まなべ会のお話やドイツでご活躍の音楽家のご子息の爽りあるお話を伺えました。またご親切に昆布茶まで入れていただきました。

最初に出会った雄一様の印象から、まなべ一族は、女性も参加出来る一族であるのかなと思ひました。

総会に出席し、それは確信に変わりました。女性の意見も取り入れられ、また梅美会長始め、ご活躍の方が多いと思ひました。

後に男と登録した、東京尚孝顧問と千葉の元與会長はこの美紀さんは男性ですか？と確認。尚孝会長は「男ですよ」としつかり回答してくれたようです。関東大会の際、皆様で、大笑いとなりました。

神奈川のみゆきさん、ゆかりさんもなぜ男部屋で変だと思わなかったの？と聞いてくれ、私も同族の会なので、男女同部屋なのかと思つたと変な答えでした。その際、東京の武会長も同部屋に名前がありましたので、今でも笑い話です。

美紀と言う男性も少ないながらいらつしゃるので、生まれ、この方何度か間違えられ、家族内では男に生まれる予定だったのかも話しています。また名前、女性活躍の繋がり

で、以前サウジアラビアの専門家の先生より、お話をいただき、交流の少ないサウジアラビアの女子大生とのお茶会に参加させて頂きました。風習や宗教も違うため、参加者は緊張しておりました。流暢な英語の1番目の方が終わり、2番目の私の自己紹介の順番が回つてきました。

「My name is Miki Marabe」
と申しただけで、なぜか大爆笑となりました。

不思議に思っていたら、女子大生らしく、頭の上で両手で、耳を作り「ミッキーマウス!!」と大笑いでした。

私の発音が変わで、世界的スタ

「ミッキーマウスと間違えられ打ち解けられ、大変光栄で楽しい時間となりました。マナベがマウスに聞こえたおかげで、世界に繋がれた気持ちになれば、アクシデントは素晴らしい！と思うようになりました。

アクシデントつながりですが、まなべ会に入り、不思議なことがありました。関東まなべ会の皆様へのご案内を東京大手町郵便局で送った後、道で風が吹き320円切手×10枚が、目の前に落ちました。まなべのご先祖様、神様からの贈り物だろうか？と思ひ大切に使用させていただきます。

まなべ会に入ったきつかけ



岡山大会にて梅美新会長、と光廣前会長と一緒に



やはり真鍋島に伺った際、礼三元会長宅に伺い、まなべですと申しただけで上がりなさい。と言葉少なく、武士のような素敵な眼差しでした。代々続く真鍋家の訪問をさせていただき、映画のワンシーンのようでした。今回まなべ島は3回目でしたが、埼玉の透会長が真鍋家訪問の際同じような感動され、やはり同族の何とも言えないつながりを感じました。

これから、女性部の皆様との交流、また東京の地を生かした活動もしていきたい所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

真鍋美紀

オーストリアの
ウィーンから

この七月中旬には暑中見舞いを頂戴していたが、全国大会も終わり、また異常な暑さのため気力も萎えてしまい全く思考停止が続き返礼も出来ないでいた。

それはさておいて、友子様からのEメールのなかには、初孫さんが誕生してすくすく成長され、六か月半で八・五キログラムになって、元氣よく動き回るので、ハラハラしている様子が伺える文面であった。また大きな声で笑うので家族の中心にいる存在であることがヒシヒシと感じられるほほえましく感じるのであった。「こどもはヤンチャが良いのだ」とは某自動車販売会社のPRメッセージであります。ご家族の大人四人に対し幼子の一人との掛け合い競争が目につかんできて大変微笑ましい景色を想像しています。今後ともお健やかに過ごしてください。

阿波から

この九月初旬に阿波まなべ会の全国大会準備委員会が開かれた。この会合には、全国の執行部役員四名が合同会議に参加して質疑応答を重ねた。詳細な計画案をされていて感心したものである。計画によれば、第四十一回の全国大会開催日は令和六年五月二十六日(日)、二十七日(月)の予定になっている。

地区の計画立案に対してはご依頼があれば、本部の誰かが賛助参加して助言などして地区負担の軽減も出来るのではないかと思っています。昨今の状況を鑑みれば、双方の連携なければ事が進まないようになって来ています。ポイントを押えた事項は確保して、他の儀礼的なものは省いていく方向が良いかも知れません。「気楽に集い、気安く交流すること」が同族間の親交を深めるのではと考えます。

静岡から



真鍋島の案内(中学生作成)



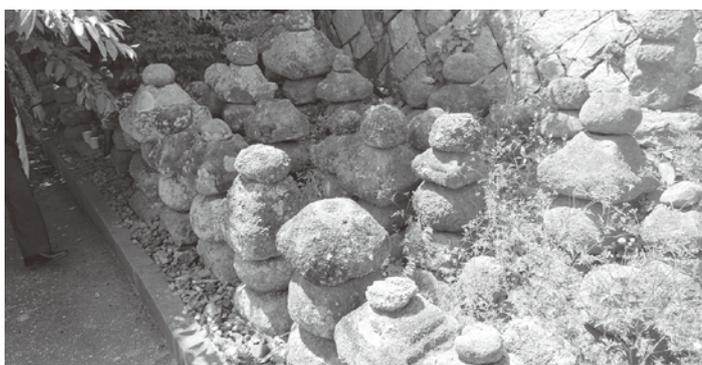
参道手摺り寄進者碑

暑い日が続いております。コロナで三年間でできなかった大会がやっと五月二十日に瀬戸大橋が望める浜川のホテルで開催出来ました。児島は神宮皇后の出た所で一度行って見たいと思っていま



まなべ公園記念碑建立の碑

した。児島の駅に着いた時は國六さん達の出迎えを受けともうれしかったです。岡山まなべ会の隆さん芳男さん本当に会場が変わる



五輪塔

などで大変だったと思います。

翌日の史跡巡りでは五輪塔・八幡神社そして五稜まなべ公園等お参りする事が出来なつかしさでいっぱいでした。この前来た時は千葉の元與さん、伊予の栄一さんと頂上のまなべ城を見たのを想い出されました。主催者の方々本当にご苦勞様でした。

来年の徳島大会を楽しみにしております。
真鍋梅美



瀬戸内の島旅へ

備前児島港内に航跡を残した観光船は、船首を西に向けて滑り出した。前日のいささか不順だった天候の余波のためか、進む前方には陸地の川から吐き出された浮遊物が船の行く手の障害物になって航行を遅らせるようであった。

幸いにもこの船旅は、凡そ一時間二十分の時間を要する真鍋島への参拝旅程のとことであったが、船会社によるガイドさん付とのことで、楽しい時間を期待できるものであった。

航路はやや北側の岡山よりであり、下津井港を北側に見てからすぐさま本四連絡橋の下津井大橋の橋脚を前方に見ることになった。船と橋脚の間は予想よりも低く感じられた。それに比べて、かつて塩飽本島から西方面の三豊市栗島へ、瀬戸芸



の折の船旅では、橋脚は大変高いところにあつた印象がある。この差は何であろうかと咄嗟に思索したものである。なるほど南側の橋脚が高くなっているのは、大型船も通過する瀬戸内海の本航路であることに気が付いたのである。

ままたこの下津井大橋の橋脚をすするりと抜けると、北西前方に大きな工業地帯を望めるようになった。水島灘をやや斜めに展望出来るようになってきたのは水島コンビナートの工場群であった。この工場地帯へ入る水路はやや狭いのであるが、大型船が航路を進むときには、

この水域を熟知したタグボートが先導してゆつくりと港まで案内することになる。前方の水島工業地帯は全国的にも大規模な部類に入るものであり、岡山県を今までの農業県から工業県に転換させる起爆剤になった県の重点政策によるも

のである(三木行治知事の時代)。この時期は、日本国が高度成長期を迎えていた時代に符合す



水島工業地帯

るものであった。

ところで、この水島工業地帯とわたしたちの乗船している船の中間領域に小さな無人の島が四つ並んで見えるのであるが、この島は杓島と呼ばれるもので、その昔源平合戦のころ、ここで水島合戦が繰り広げられた海域である。このため多くの兵士が戦死したことで、死者の悲しみの怨念がこの海域に漂っていると当時の人達は考えていたのであろう。時代の経過とともに伝承として受け伝えられてきたものである。お盆のころにはこの海域を漁師た

ちが漁をしていると、何か違う感覚を覚えて幽霊が「水をくれ、水をくれ」と、誘うのである。人を恐怖に晒す場所として伝承されてきたもので、いわゆる「船幽霊伝説」である。筆者はこの話を中学生のころから讃岐仁尾の友人漁師から聞いたことがあつた。備讃地域あたりでは有名な伝承であるが、期待にたがわず当船のガイドさんもこの話をしてくれたので、関心深く興味をもって耳を傾けたものである。

この中央瀬戸内領域には、歴史や文化・学術などの分野において多くの人材を世に出していることが分かる。宗教界で見ても、弘法大師空海さんや法然、栄西、そして智証大師さんなどである。このこの鴨方では仁科義雄など幾多の人材をも輩出しているのである。これらの話をお伝えしていると、間もなく真鍋島が西前方に見えてきましたよ、との案内がされた。船足を少し落として岩坪港へ入ることになる。ここで



真鍋島全景

は健脚の人達がまず途中下船して、残りの人達はそのまま本浦港へ向かうことになった。千人碑の開眼供養は、僧侶さんの都合で午後に変更になったことで、まず昼食を摂り、その後自由に休憩を取ったり、懇談したりする計画手順を前もってしていた。

船が本浦港に着岸してからは、近くの真鍋礼三さんの御霊に挨拶したくて立ち寄らせてもらった。讃岐まなべ会が島を訪問してから久方ぶりであった。芳男さん夫妻は庭に水を散らし蚊取り線香をたてたりして迎えてくれ、清々しい気持ちと日本文化の香りがかぐことが出来た。本宅を退去してから、家並みを少し上がったところに円福寺があつた。ここは真鍋家の檀家寺であり、ここで参加者はゆつたりとした時間を過ごす場所になる。昼食の品は、岡山の隆会長さんが知り合いの岡山の割烹さんが親身に味付けした逸品のもの

であった。昼食はこれを美味しくいただいたのである。昼食後の自由時間には、三々五々旧交を温めながら、笑いの渦もあちこちに出来ていたし、初めて参加された方々は島の景色風情を感じながら本浦港に戻るこ
 とになった。

そこにはチャーターしていた山本さんの船が待ち構えていて、それに乗り換え「沢津ヶ浜」へ向かうことになった。この白浜に着岸してからは、脚立と人の手を借りながら降り立つ事になる。眞鍋藤正さん玄孫にとっては、母親の懐中に抱かれての上陸初体験となった。成人してから真鍋島を懐旧して
 くれるであろうとの願いをもつてわたしは幼児と母親の様子眺めていたが、そこに母親の力強い愛情と気品の美しさを感
 じたのであった。

この浜からまた急な坂をお互い協力しながら登り切るこ
 とが出来た。この登山道には手
 すりが設けてあるが、この設備
 は、阿波の会長をされていた眞
 鍋五郎先生の善意により出来
 上がったものですが、わたし達
 は今、その恩恵に預かっている

幸せを感じた。
 さてここに整備されている
 千人碑公園には、「まなべ」に
 係する人たち
 の名前が今回
 の第四次募集
 により累計で
 一千八十八名
 の多くになっ
 ている。今回
 第四次の刻銘
 募集に参加さ
 れた四十八名
 の新規石碑を
 中心としての
 開眼供養され
 たものですが、
 これまで大口
 寄付された方々のお名前の石
 碑も今回新たに建立いたしま
 した。

昨今のコロナ問題の厳しい
 環境の中でありながら、今回の
 式典にご参加頂き厚く御礼を
 申し上げます。また、これまでに
 も多くの会費納付のご協力を
 頂きました会員のご支援あれ
 ばこそ、毎年全国大会の開催や
 会報誌発行などの諸事業を推
 進出来ているのです。併せて衷
 心より感謝申し上げます。



1,088名の名前が刻まれた千人碑

この千人碑公園での石碑に
 刻銘されたお名前の中には、既
 に鬼籍に入られた方々もあり
 ますが、ご存
 命中のご支援
 ご指導に感謝
 と哀悼の意を
 ささげたもの
 でした。この
 公園にはいつ
 もとかわらず、
 清掃の手が入
 っていて気持
 ち良いもので
 ありました。
 芳男さんご夫
 婦や関係者の
 心づけにお礼
 を申し上げます。

さて、このところの高齢化現
 象は各分野において問題とな
 っておりますが、わたしども
 まなべ会組織においても同様
 であります。しかしこの逆環境
 境の中にあつても、歴史推移の
 把握は重要であり、今後の方向
 性の予測も大切であります。氏
 族の強固な組織活動は、多面的
 な学習により情報交換が出来
 るのではないだろうか。あれこ
 れ思索しながら将来に思いを



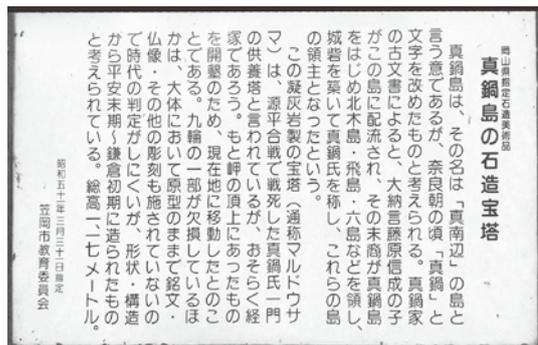
巡らしたりしました。

導師の読経が厳かに終えて
 からは、隣接する「まるどう様」
 にも拝礼して登山道をゆつく
 りと、注意深く来た道を下った。
 浜辺の木陰でしばし休憩して、
 迎いの船を待つことになる。こ
 の間、雑談しながら交流を図り
 親睦を高めました。潮騒の音を
 聞いていると、やがて岬の端に
 船影が少し見えてきた。よく見
 ると、勢いよくこちらに向かっ
 てきていた。この船に乗り本浦
 港へ引き返したのです。ここ
 では往路に乗って来た児島の
 チャーター船に乗り換えて、出
 発してきた児島港へ帰港する
 ことになった。

やっと真鍋島での一日の行
 程を無事終えることが出来て、
 安堵した次第であった。帰りの
 船足は、いささか速く感じたの
 であつたが、これは潮の満ち引

きが原因によるもの
 かもしれない。この
 時間帯には潮の流れ
 が東に向かつていた
 ものと考えるのであ
 るが、昔の船人は良
 く状況を分かっていた
 て、操船していたの
 だらうと納得した次第である。
 真鍋島と丸亀、仁尾などの西
 讃岐地域との関りが深くなっ
 たのは、地理的自然条件も些か
 加味せられていたのであろう
 かと想いを起こすのであつた。
 これまで粗い描写ではありま
 すが、ここに翌日観光の概要の
 一端をご報告いたします。皆様
 お疲れさまでございました。

國六 記



令和五年夏季の特異な現象に想う

この夏は生まれて初めてと言え、厳しい年と言えようか。しかしまだ一段と厳しい自然現象が来季以降も発生するかもしれないと想像するのである。その予感が当たらないよう祈るのみであるが、この期に当たって、国連のグテーレス事務総長は「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が来た」と公式場面で表明されたのである。

地球温暖化の到来とその後の危険性については、早くから例の愛媛県出身の真鍋淑郎先生が指摘され、二年前にノーベル物理学賞を受賞されている。地球のヒートアップ現象の到来は、人類の強欲による自然破壊からくる帰結と考えられる。



近世から近代への移行で迎えた経済活動の中心理念に「資本主義」経済という概念を据えている。初期の時代には、需要と生産とはほぼ一致するものであった。しかし生産や輸送の効率を図るべく手段の近代化を進めることになり、必然と競争力の機運となる。各国お互いが協調できれば良いが、さもなければ利己的な意志で活動することになる。競争の結果は、諍いとなり、また製品の資財である資源の確保競争も生まれてくる。18〜19世紀にかけて発展してきた資本主義経済は、同時に未開発地域への進出となり、いわゆる植民地政策が一般的となる。その結果がアフリカや中東そしてアジアという未発展国が植民地の対象地域になってゆく。需要と供給のバランスが計れるときはよいが、不均衡になったり一部の勢力が強くなったりすると、相克が発生するのである。そのあたりの調整が上手く出来ればよろしいのですが、その時の国内事情により外交

交渉で強く出てきて解決できないければ、武力で解決しようとするのである。これまでの歴史経過を鑑みるとドロドロしたものになっている。これまでに幾多の大戦争の結果を先進国は学習してきたものであり、今では国際連合という国家連帯機関が一応できてはいるのである。しかしながら重要な決定事項については、五つの常任理事国の何処かの国が否認すれば事が運ばないのである。おまけに国際間では、ロシア、中国に対してアメリカ、イギリスを中心にして相克が存在している。しかしこのところはブリックスやグローバルサウスという発展途上国や新興国の組織化による第三機関が台頭しつつある。三つの勢力機関が上手く協働機能してくれば、国連機構の改革を図る方向に向かう機運も芽生えるのではなからうか。大国のエゴを防止できなければ、地球の温暖化問題の解消や国際政治の協調性には向かわないであろう。全人類が即刻急がねばならない共通問題は、地球温暖化の阻止であり、後進国家の国民飢餓の解消であろう。覇

権主義国家のリーダーたちの自然との共生意識の芽生えや慈愛意識の醸成に、国連機関は全力で努めなければならない。今日では文明化があまねく進展しているのに、破壊手段を持つている国々は、絶対に利権を手放さないのである。今後は国家間で「国民すべてを幸せにする運動」の活動競争を志向してもらいたいと思うのである。これまでに先発利益を享受した国は、未発展国を対象とした援護出捐行為を行うべきだと考えるものである。これまでに資本主義の果実を直接間接的に享受している先進国は、例えば中東の石油資源、またアフリカの鉱石資源(例えばダイヤモンドなど)人的資源を獲得しているのである。

かような歴史の変遷から診てみると、お互いの関りがあったのである。しかし一方は武力や騙しの技法などでその土地の資源を取得していたのである。考えてみれば、地球資源のすべては人類共有の資源として神など存在するものではなく、生物などの共有財産として与えたものであった。然るべく神の摂理のもとに従うべきであったのである。然るに人類とウイルスのみは特異な活動をしたのであった。しかし、その完全な摂理形態が破られたのは、西欧を中心とした宗教革命の後の経済活動すなわち資本主義の勃興を機縁として、人類の行動は気まま無尽のものとなってしまった。ところでこの夏季の異常気象は、地球上の全人類が直面している大危機の前兆であろうと想うのである。例えば、ハワイのマウイ島の山火事はハリケーンという大風により電線切断による火花が乾燥した雑草に点火したことによるもの

のであった。然るべく神の摂理のもとに従うべきであったのである。然るに人類とウイルスのみは特異な活動をしたのであった。しかし、その完全な摂理形態が破られたのは、西欧を中心とした宗教革命の後の経済活動すなわち資本主義の勃興を機縁として、人類の行動は気まま無尽のものとなってしまった。ところでこの夏季の異常気象は、地球上の全人類が直面している大危機の前兆であろうと想うのである。例えば、ハワイのマウイ島の山火事はハリケーンという大風により電線切断による火花が乾燥した雑草に点火したことによるもの



ハワイのマウイ島の山火事

である。雑草は外来種で、大きく伸びる性癖のものである。外来種は違った環境下にあつては異常な対応をすると言われている(外来種の問題の対応)。またカナダの山火事、ロシアのシベリアやギリシャの森林火災、北極圏の氷解問題、そして西ヨーロッパの豪雨など枚挙にいとまがないのである。また日本においても気流の変動による線状降水帯の発生による豪雨、そして台風の襲来頻度の高まりなど大きな危機が予想される。

ところでこれらの危険の発生予測や発生後の対応について、世の先導者たちは万全を期して学習してきたのであろうか。このところの為政者や官僚たちの言動を見るにつけ、適格な為政行為を図ってきたのである。甚だ疑問を感じるのである。まずもって一番大切な取得行動概念は、「危機管理意識の保持」、「事態発生後の回復処理法」そして「至誠惻怛」の目的意識を持った行動実行であろうと考えるのである。

また一方国際政治が現状上手く機能していないのは、国際連合の活動に問題点があると

考えるのである。現行の五つの常任理事国の否認権の特権である。この何れかの国が否認権を行使すれば事へ進まないことである。第二次大戦後の五大国がリーダーシップを採り終戦問題を扱った実績がネックとなつていのである。時代はまったく変わってきているが、その幻影を引き続き踏襲していることである。今では良心的な国も多くなつたことに鑑み、このあたりで国連機能について万人が納得する適格な改革を進めるべきであろう。規約に反した行動をとる張本人国が常任理事国に座つて自己の行為を是認している事の矛盾は明確であり、また国内の少数民族の抹殺や思想改革を進めているのは国連憲章に抵触しないのであろうか。今日における大国の横暴は許されないものになつてい

この期に際して日本の立ち位置をどのように考えればよいのだろうか。現今の国会議員政治家を概観すれば世襲議員の比率が高くなつており、また、最近では自分の身内を側近に入れてい

範囲の狭さを意味しているものであり、信頼すべき人材を身近に持つことが出来ていない貧弱さも意味していることである。国会議員自身の保有特権を制度改革できないのは、改革する意思がないのである。国民に負担を課すことは国民の生活権を護らず、自からブローカー的の事業推進を本分とするのであろうか。



関藤蔭



山田方谷

さて江戸幕末頃の激動期には素晴らしい人材が出ていたのである。備中松山藩の「山田方谷」そして福山藩の「関藤蔭」の両名が想いだされるのである。両名とも日本国内ではほとんど知られていないのであるが、大河ドラマの主人公にしよう



伊沢栄一

とNHKに働きかけようとしているのである。しかしいつぱんに頂上を狙う方策では駄目

である。まずもって子供などを対象とした「アニメ映画」を制作して、ポピュラーなものに仕上げて身近な人たちに理解してもらおうのが良からうと思つたのである。彼の思想は岡山備中地域から派生して大きな感化力を多方面に及ぼしている。同時代の友人である阪谷朗蘆、方谷の弟子の三島中洲など連綿



三島中洲



阪谷朗蘆

と思想は繋がれているのである。阪谷朗蘆の影響により「伊沢栄一」は感化されて大輪の花を咲かせていたのであろうか。朗蘆の息子である阪谷芳郎の奥さんは伊沢栄一の娘である。阪谷芳郎が東京の知事をしていた時に「明治神宮」を建設している。面積は広くして森も造つて東京の憩いの土地とし、同時に災害時には避難場所としての意味も持たせて造つたものと想起するのである。ところが昨今、森の面積を縮小して箱ものを創ろうとしている近視眼的人物が居るのには困つたものである。

この異常な夏の時節の下で、支離滅裂な考えがあれやこれやと線香花火のように燃え上がり、そしてまた違った色の火花が点火されるのである。ともかくもノーベル賞を受賞された誠実な真鍋叔郎先生はこの時期に如何なる考えを発露されるのであろうか、甚だ興味を覚える次第である。

(参考資料)
山田方谷ゼミナール9号
吉備人出版
香川不器男

瀬戸内 よもやま話

この地域は歴史的にも関心が寄せられる舞台があった。近代から外国との交流が始まると、この海域の美観に魅せられて、彼らが受けた感想の情報は、当該入国の外国人により海外に発信されていた。そのことがこの一帯を日本の国立公園第一次指定に結びついたのである。

さてこの海域には、風景のみならず文化、歴史面で特徴ある遺産として残されている。今回全国大会の会場が笠岡市から急遽玉野市の洪川へ変更されることになった。真鍋島への渡海ルートも、当初の笠岡港から真鍋島ではなく、倉敷市の児島港から真鍋島へと変更になった。ここ児島から真鍋島への船旅の変更に乗せて、些かでも皆様方が退屈しないようにと、この地域のよもやま話を簡略にまとめてお伝えするものです。

①瀬戸内の源平合戦について
備中、備前での合戦は、水島、下津井、藤戸などでし烈な戦い

が行われた。讃岐では屋島、志度合戦がある。特に水島合戦では日食が起こった特異な戦であった事で有名であるが、源氏方の木曾義仲軍はこの自然現象を知らずにいたため動揺している。この地域での勝利を得た平家方は勢いを得て兵庫福原で体制を立て直すことになった。その後は、一の谷合戦、屋島合戦、などの諸合戦そして最後は壇ノ浦の合戦を経て平家は滅びてゆく。この西国変転の道程においては、平家の女官たちは瀬戸内の島々で有力者の保護を得て後々の時代を歩んでいくのである。従って瀬戸内には一部の地域においては京ことばが残っていたと言われている。

さて時代が下つては、平家の傍系北條家は、鎌倉の源氏幕府三代の後には鎌倉時代を主導することになるのはご承知のとおりである。

②船幽霊伝説

この中瀬戸での戦いは熾烈なものであったため、多くの戦士が海のモクズとなつてしまつた。この有り様の悲劇性を示しているのがこの地域で語ら

れている船幽霊伝説である。「御盆の月の美しい十五夜であった。船はのろのろと水島灘を進んでいった。船頭はふと、ささやくような低い声を聞いた。空耳では無いかと耳を澄ますと、今度のはつきりと、暗い波間をほうように、”杓を借せえ、杓を借せえ”と絞るような声が聞こえてきた。船頭は何かによかれたように、その声に吸い寄せられて、手元の杓をとつて、声のする暗い海に投げてやつた。すると、海の中から細い手が出て杓をつかむと、船の中へ水を汲み込み始めた。そして、その手は見る間に数百、数千と増えて、あつという間に船は水浸しになつて沈んでしまった。「お盆の十五夜には杓島に近寄るな。杓を借せと言つたら、底を抜いて貸してやれ」と今でも船乗りは言っている。水島灘にある四つの小島あたりが伝承対象の杓島である。この話はわたしの郷里である仁尾の友達漁師から中学生頃に聞いていたのを思い出した。

参照

*玉島風土記
森脇正之著 第169巻

*岡山の源平合戦談
市川俊介著 第192巻

③児島と野崎家
瀬戸大橋の完成と共にJR瀬戸大橋線が開通することになった。この橋の付け根にJR「児島駅」が新しく開設された。そもそもこの一帯は、元は塩田地帯であつたのであるが、遠くは江戸時代から塩田経営がされており、またその後明治に入つても拡張されてきた。この塩田を経営していたのは地元の野崎家であり、この野崎家は日本一の塩田王である。塩田を創つたのは野崎武左衛門であるが、拡張したのは孫の野崎武吉郎である。父が若くして亡くなつたため、武吉郎は17歳で家督を相続している。

さて、この駅前当たりの新市街地は塩田の跡地を開発したものであるが、そもそも野崎家の出捐行為なくては、この市街地は出来なかつたのである。この武吉郎は、かの有名な陽明学者の山田方谷(備中松山)や三島中洲(倉敷)と深い関りがあり、また備中松山の平松家本家とも縁戚であり、大変社会貢献している人物である。野球監督で

有名な解説者の小西得郎氏の父親「小西増太郎」は野崎家の執事的存在であり、青年期には野崎家の援助によりロシアに留学している。そのおりにトルストイと親交を結んでいて、帰国に際してトルストイは、愛用していたバイブル(聖書)を彼に贈っている。この現物は、また小西から野崎家へ贈られて野崎家が保有管理している。

この野崎家、山田方谷、阪谷朗蘆、渋沢栄一、三島中洲を中心にした人達は国内で大変有力な人脈を形成していた。

参照

*野崎台湾塩行の研究
太田健一著(元山陽学園大教授)
吉備人出版

*小西増太郎・トルストイ
野崎武吉郎交情の軌跡
太田健一著同出版社

④倉敷と大原家

大原家は倉敷において倉敷紡績を創業した家系であるが、その二代目大原孫三郎がよく知られている。若い頃はボンボン生活を送っていたため、閑谷学校から東京の早稲田に進学していたころには悪友の取り

巻き連が出来て、放埒な生活を送ることになった。その状況を危惧した親御たちは、立派な人物である石井十次の感化を受けさせることになった。石井十次は社会福祉事業家であり、存命中は多くの孤児を収容して生活を看取っていた。生活困窮者という生活弱者に愛をささげる石井十次の生活態度から何かを学ばせようとしたものであり、生活環境の変更にによる自我の目覚めを期待したものであろう(十次は宮崎の出身で、岡山医学校の学生から社会福祉事業者へ方向転換する)。石井十次の娘が画家児島虎次郎の嫁さんである。虎次郎は大原家の援助によりヨーロッパ(ベルギー)へ絵の勉強に行っている。かくして生活態度を改めた孫三郎は、社会貢献という形で多くの分野で立派な業績を立てる人物へ転換したのである。その後大原家の当主になってからの実績について概要を列挙してみると下記のとおりである。

- ① 倉敷中央病院の設立
- ② 社会科学研究所の設立(法政大学がその機能を受け継ぐ)
- ③ 社会福祉施設の援助(石井十次などへの援助、石井十次は岡山で多くの孤児を収容している)
- ④ 文化芸術面の振興と人材の育成など(大原美術館設立、児島虎次郎への援助など)
- ⑤ 水島工業地帯の策定(農業県から工業県へ)

日本が高度社会に向かう頃、産業の発展が見られるようになる。もともとその契機となったのは朝鮮動乱による需要の上昇がその契機になっているのである。

ここ水島での工業化の進展は、日本列島での産業工場地帯指定(日本列島コンビナートの指定)による当時の国策でもあるが、岡山県においては、三木行治県知事が水島を中核として、これまで「農業県から工業県への転換」を意図したものであった。県知事に就任してから、早速この計画を推進すべく、県の工業化推進による県民所得向上が図られるよう企画した。このため、地元の経済界はこぞ

つて岡山大学に新しく工学部の設置を国に働きかけている。その結果、地元からの強い要望もあり地元の岡大に工学部が開設される。当初は機械科と化学科の二つの専攻科で出発したこれらの根底には、三木知事の「産業と教育と衛生の岡山」をスローガンにしたものであった。当時の産業化都市構想に相乗って今では、水島工業地帯は県工業生産額で大きな比重を占めることになった。一方大学においても地域の活性化に大いに貢献することになった。

岡山の近代化と福祉行政に多大な貢献をした三木知事は、昭和39年(1964)に日本人として初めて東洋のノーベル賞といわれる「マグサイサイ賞」を受賞している。また一生を独身で通しているが、このことは、三木行治の人間性による「社会のために貢献する」という強い意志の発露(無教会派クリスチャン)ともいえるものであり、我が命を人々の幸せ、社会のために捧げた一生でもあった。

⑥ 西の人材の宝庫(各分野での人材)

倉敷、井原・高梁、そして福山を結ぶ三角デルタ地帯をはじめ、この地区両備地域からは多くの有能な人材を輩出している。先般、元総理田中角栄氏の筆頭秘書官をされていた小長啓一氏が、地元民放放送(RSK)の一時間特集番組に登場された番組があった。この放送の中で元総理は「・長野県と岡山県民は頭が良い」と言明していたシーンを観たのである。なるほどと感じたのであるが、小長啓一氏は通産省の事務次官に就任しており、また退職後の中東戦争時には、アラビヤ石油の社長として現地で陣頭指揮を執っているのである。また一方、大学同窓の吉永雄介氏は地方大生出身ながら検事総長にまで上り詰めている。両者は何れも旧制第六高校の出身で、また岡山大の第一期生であるが、吉永氏は東京地検特捜部の副部長の時、田中角栄氏を逮捕しているのであるが、これもまた歴史のアイロニー(皮肉)であろうか。

もともと、この吉永氏は国家公務員上級職試験合格者の研修試験の成績はトップであったという伝承を聞いている。

⑦ 宗教界の人材

この瀬戸内地方には、古来より思想家や宗教家が誕生しているのは特筆すべきであろう。日本の浄土宗を開いたのは法然であり、禅宗の一派の臨済宗を開いたのは栄西である。

法然：平安末期の長承二年(1133)美作国久米郡に生まれる。末法の救済を本願とする阿弥陀如来の一仏に全面的に帰依し、「称名念仏をさえ行えば、どのような罪業の深い者でもいっさい衆生は平等に極楽往生が出来るといふ信仰」を得るとしている。その後、法然は法難に遭い、塩飽本島に流されてきたのは有名である

栄西：平安末期の保延七年(1141)備前一宮、吉備津神社の神官・賀陽氏に生まれる。仁安三年(1168)に宋へ渡る。5か月の滞在の間、天台山へ上り、中国の仏教を視察する。書物を多く持ち帰っている。文治三年(1187)、再び渡宋する。そして4年にわたって滞在し、臨済宗の虚菴懐徹のもとで禅の教えを受け、さらに天童山景德寺に移って印可を授けられる。正治二年(1200)源頼朝の一周忌法要の導師を務め、

北条政子の建立した寿福寺(鎌倉市)の開山となった。また建仁二年(1202)源頼家の外護によつて京都に建仁寺を開創する。榮西は中国から茶を持ち帰つたことで「茶祖」として崇拜されている。

また、近代に入っているころの江戸幕末期には時代は大きな転換期となつてきている。この変動期には多くの新興宗教が勃興している。ここ岡山でも黒住教や金光教が誕生しているが、これらは岡山人の気風から誕生したものと考えられる。

黒住宗忠：江戸幕末期に岡山で生誕(1780~1850)している。宗忠35歳の冬至の朝、夢中で日の出を拝むうちに、太陽と一体化するという神秘体験に遭遇する(天命直授。感謝・陽気・歓喜を基とする教義が生まれた。現実をプラス志向で受け止め、天照大御神の“分心”としての喜びの人生を全うしようとする教えである。黒住教として今も活動している。

金光大神：岡山県の金光町で貧しい農家に生まれている(1814~1883)。日柄や方位など日本人を縛つてきた「たたり神」の迷信をひっくり返し、人

間を守り支える新たな神。天地金乃神を見出す。安政六年(1859)以後、神と氏子の間で“取次”に専念した。信仰のための荒行を「体を苦しめ病気をこしらえるようなもの」と否定する協議には、生命への合理的な視点が滲んでいる、としている。

また太平洋戦争後も日本各地で新宗教が勃興していることから考えると、激変する時代の変動期には、人の心に入り込む新しい宗教が発生しているのである。宗教としての在り方、存在の意義について能々考慮すべき対象問題として関心を寄せてみるものであろうか。

参照

- * 岡山の宗教 長光徳和著 岡山文庫51号 日本文教出版
- * 週刊朝日百科「仏教を歩く 06号法然」
- * 週刊朝日百科「仏教を歩く 08号榮西」
- * 吉備回廊 山陽新聞社

⑧良寛と玉島

近世初頭の玉島港、当時の玉島港は笠岡港とともに西国航路筋からの備中の寄港地であった。しかしこの玉島港は高梁

川との関わりがある高瀬舟の寄港地でもあつた関係で、笠岡港より優位な地位にあつたのである。

ところで良寛は、今の新潟県・出雲崎町に生まれた良寛がこの玉島に来たのは安永八年(1779)、22歳の時である。名主の総領に生まれただけで、学問好きではあるが、名主の跡を継げるような性格ではなかつたのである。18歳で近くの知り合いの禅寺へ入り、家督は腹違いの弟が継いでいる。22歳の時、玉島圓通寺の住職である高僧「国仙和尚」がこの寺を訪れた。国仙和尚は寺の住職の師であつた。国仙和尚と出会つた良寛は、国仙和尚の高邁な人格と見識に魅せられ、弟子入りして玉島の圓通寺へ従つてきたのである。ここで1790年まで国仙和尚の下で修業することになり、和尚から修了証明の「印可の偈」を与えられている。その後、国仙和尚が亡くなり、次の和尚が赴任してきたが、性格があまり良くなかつたためか、良寛は土佐へ托鉢修行に出るのである。この玉島時代が良寛にとつては一番幸せで人格形成の上で成長した時代だったのでな

らうか。

参照

- * 山陽新聞平成22年12月20日(2010)先人の風景
- * 山陽新聞平成9年11月16日(1997)吉備回廊
- * 玉島風土記No.169号
- 森脇正之著 日本文教出版
- * 讃岐まなべ会第14号
- 「聖」良寛“のみち”

⑨幕末の「いろは丸事件」

江戸の幕末頃に真鍋島の西側海上で、坂本龍馬が率いる亀山社中の操船する船「いろは丸」と紀州藩の船「明光丸」が夜間の航行中衝突する海難事件が発生したのである。亀山社中側の船は用船であり、坂本龍馬はさぞ困つたことであろう。この賠償交渉は、双方とも譲らず、解決には相当の日数を要することになった。結局、坂本龍馬の法律知識と交渉知恵により亀山社中が勝利することになった海難事件であり、紀州藩は大きな賠償金を支払うことになる。

参照

- * 全国まなべ会会報第65号P3

⑩真鍋島と村上家

村上水軍の大将である村上武吉の従兄弟である景広が笠岡城の城主であつたが、後には九州に入った細川家の家老に就いている。この景広の室は真鍋島の真鍋の女であつた。景広が九州に入った折には真鍋の弟たちが九州に移つていて、時代が落ち着いてきては、事務派が上手く立ち回りし、武闘派にとつては居心地のよくない時代環境になつていくのである。その後景広は藩を離れることになる。しかし弟たちは熊本を離れずに、ここへ土着することになる。この子孫たちは福岡の八女周辺におられるのがその係累ではなからうか。

参照

- * 全国まなべ会会報第57号 P4 海の覇者たち
- * 同会報誌第58号 P6
- * 讃岐まなべ会会報第15号 和泉のまなべについて

報告者 真鍋國六



令和4年度一般会計決算

令和5年度一般会計予算

単位：円 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

単位：円 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

Table with columns for Income (取入) and Expenses (支出), including sub-headers for Budget (予算) and Actual (実績). Rows include Annual Fees (年会費), Association Subsidies (会報助成金), Advertising (広告費), etc.

Table with columns for Income (取入) and Expenses (支出), including sub-headers for Budget (予算) and Actual (実績). Rows include Annual Fees (年会費), Association Subsidies (会報助成金), Advertising (広告費), etc.

次期繰越金明細は普通貯金 事務局長通帳 0円 国六財政部長通帳 791,289円 振替手数料 33,797円 国六財政部長定額貯金 1,300,000円 局からの通知料 11,220円 合計 2,091,289円 合計 45,017円

注1: 予算執行に際して各項目間の流用を認めるものとする。

令和4年度継志館会計決算

令和4年度記念碑特別会計決算

単位：円 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

単位：円 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

Table with columns for Income (取入) and Expenses (支出), including sub-headers for Budget (予算) and Actual (実績). Rows include Interest Income (貯金利子), etc.

Table with columns for Income (取入) and Expenses (支出), including sub-headers for Budget (予算) and Actual (実績). Rows include General Accounting Assistance (一般会計よりの助成), etc.

次期繰越金(残高)明細 定額貯金 1,000,000円 通常貯金 399,901円 合計 1,399,901円

注1: 保守管理費は管理の実体不明につき今年度計上していない 実体把握が必要である。

次期繰越金(残高)明細 定額貯金 1,840,000円 合計 2,076,806円 通常貯金 236,806円

「第40回全国まなべ会総会岡山大会」での役員改選について

Table showing National Officers (全国役員) with columns for Position (所属), New Appointment (新任), and Former Appointment (旧任).

Table showing Regional Officers (地区役員) with columns for Position (所属), New Appointment (新任), and Former Appointment (旧任).

全国まなべ会令和五年度長寿賞



岡山大会でのアトラクションが大盛況

本年満八十歳になられる4名の方が受賞されました。事務局より記念品を送付いたしました。

- 理事 眞鍋 栄子 (千葉)
- 評議員 眞鍋 義昭 (近江)
- 理事 眞鍋 博 (伊予)
- 理事 眞鍋 長生 (福岡)

令和六年度の事業計画

近年度においては、コロナ感染問題もあり、各地区においての事業活動は、勢い厳しい環境下に置かれて来ました。

紀州白浜や土佐の佐川などでは、従前より先祖祭りも執り行われておりましたが、現今では如何なものでしょうか。全国まなべ会においては、やっと今年先祖祭を岡山で開催することが出来た状態であります。

さて令和六年度の事業については、ご承知の環境下にありますので、特定の事業事は現在持ち合わせておりませんが、ただ継続的に実施している会報誌発行については、毎年四月、十月のそれぞれの初旬に作成して、会員の皆様へお届けしたいと思えます。

ところで第四十一回の全国大会は下記の通り阿波まなべ会主催により開催することが決定しておりますので行動計画の中に入れておいてください。

(お知らせ)

第四十一回全国まなべ会総会(阿波大会)

開催日 令和六年五月二十六日(日)～五月二十七日(月)

開催地 徳島県三好市山城町 ホテルまんなか他

*現在、阿波まなべ会や本部との連携により計画策定中であります。

お悔み情報

謹んでご冥福をお祈りしますとともに、長年にわたるご支援とご活躍に対し厚く御礼申し上げます。



特別顧問
阿波 眞鍋 勝様

*全国役員の方がご逝去の折には何卒本部事務局へご一報をお寄せください。

編集後記

今年の夏は生まれてからの記憶の中では一番の異常気象であったと思うものです。日本国に限らず、全世界が沸騰する暑い空気の中で生活しているようなものです。国連のグテーレス事務総長さんは、異常気象の現出のみならず、今発生しているロシアによるウクライナへの一方的侵攻にも大変心痛しているのではないのでしょうか。

当方にとっては、かような異常気象現象に今回遭遇して筆も進まず、ぼんやりとして徒に日数を費やしてきたものです。また、会員各位からの寄稿件数も些か少なく、会報誌作成は量的な不足により、編集作業も困難な状態でありました。このため原稿集めと作文に時間を要し、今回の会報誌発行はいささか遅滞することになってしまい申し訳ありません。その点を考慮に入れさせていただき内容の充実を図りたいと思えました。会員皆様や、関係者の方々のご指摘を頂き、より一層会報誌作成に勤めてまいりたいと存じます。

なお会報誌作りは型苦しいものばかりでなく、ちょっとした身近な話題でも結構です。わたし達の交流手段として会報誌はあるものですから、遠慮思案なく広報部へどんどんお寄せいただきたいと思えます。

ところで今年の時候は特に残暑が厳しかったものであります。また来年も同様かもしれません。常日頃から少しでも体を動かすことにご留意され、健康な毎日を過ごされますよう祈念申し上げます。会報誌刊行の報告とさせていただきます。

眞鍋國六 記